

平成28年度 福岡医療短期大学・久留米信愛女学院短期大学の 大学間交流活動「学生 IR 調査」実施報告書

1. 概要

- ・実施時期：平成 28 年度 後期開始時
- ・対象学生：
福岡医療短期大学 保健福祉学科 2 年次 28 名 [回収率：100% (28 名/28 名中)]
久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科 2 年次 56 名 [回収率：100% (56 名/56 名中)]

2. 取組の趣旨

学習支援や教育支援、及び教学評価などの教学支援組織を通じ、高等教育の質を保証・向上させる方策の具体化が求められている。そこで今回、学生の学修成果を多面的に評価し、高等教育の質保証システムの創出と教学支援組織のさらなる育成を目指すことを目的として、当該「学生 IR 調査」を実施した。さらに、久留米信愛女学院短期大学との大学間交流協定に基づき、専門教育等に関する共通の設問事項を用いた質問紙調査を実施した。

3. 結果の概要

A) 全般的な学習状況、B) 課外学習、C) 学生満足度を含めた教育の質保証、の3つの観点に基づき、結果の概要を報告する。

A) 全般的な学習状況（専門教育、アクティブラーニングを含む）

(1) 専門教育の実践

- ・「学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ経験 (p4, II-7-A)」や、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ経験 (p4, II-7-B)」が「あった」と回答した学生は、両大学とも 95%を超えていた。特に、久留米信愛女学院短期大学は、福岡医療短期大学と比べ、(p4, II-7-A)に関する最上位の回答である「ひんぱんにあった」の比率が高い状況であった。
- ・福岡医療短期大学においても、臨床実習等のインターンシップ教育プログラムを体系的に実施しているものの、(p4, II-7-A)と (p4, II-7-B)に関する肯定的な回答比率は経年変化(平成 26～28 年度)においても 5 割程度にとどまっている。
- ・教育内容に関する満足度について、「専門教育の授業 (p33, V-21-A)」に対して、両大学とも肯定的な回答比率が 7 割程度を、「将来の仕事と授業内容との結びつき (p35, V-21-E)」について、両大学とも 7 割程度の学生が「とても満足」「満足」との回答が得られた。
- ・しかしながら、「授業の全体的な質 (p34, V-21-C)」では、肯定的な回答比率は福岡医療短期大学で 4 割程度、久留米信愛女学院短期大学では 6 割弱に留まっている。
- ・(p34, V-21-C)について、福岡医療短期大学の経年変化(平成 26～28 年度)においても増加傾向は認められない。

(2) ライティング、レポート課題

- ・「学生自身が文献や資料を調べる (p5, II-7-E)」に関する肯定的な回答比率は久留米信愛女学院短期大学が9割程度であるのに対して、福岡医療短期大学では3割程度に留まっている。
- ・「定期的な小テストやレポート課題 (p6, II-7-F)」に関する肯定的な回答比率は久留米信愛女学院短期大学が10割であるのに対して、福岡医療短期大学では7割程度に留まっている。
- ・「教員から提出物に添削やコメントをつけて返却される (p6, II-7-G)」に関する肯定的な回答比率は、久留米信愛女学院短期大学が9割程度であるのに対して、福岡医療短期大学では4割程度に留まっており、経年変化(平成26～28年度)においても伸び悩んでいる。

(3) アクティブ・ラーニングを通じた学習

- ・「自分の考えや研究を発表する (p7, II-7-H)」の肯定的な回答比率は、福岡医療短期大学が7割程度であるのに対し、久留米信愛女学院短期大学は8割強であった。
- ・「授業中に学生同士で論議をする (p7, II-7-I)」の肯定的な回答比率は、両学科とも8割程度であった。
- ・「授業で検討するテーマを学生が設定する (p7, II-7-J)」に関する肯定的な回答比率は、福岡医療短期大学が3割程度のところ、久留米信愛女学院短期大学は6割程度であった。
- ・福岡医療短期大学の経年変化(平成26～28年度)において「授業で検討するテーマを学生が設定する (p7, II-7-J)」に関する肯定的な回答比率の増加傾向は認められなかった。

B) 課外学習

- ・「授業のために図書館の資料を利用した (p9, II-8-A)」の肯定的な回答比率は、福岡医療短期大学が2割程度のところ、久留米信愛女学院短期大学は9割程度の高い比率であった。
- ・「授業課題のためにWeb上の情報を利用した (p9, II-8-B)」の肯定的な回答比率は、福岡医療短期大学が6割程度、久留米信愛女学院短期大学は9割程度の高い比率であった。
- ・一週間あたりの「授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする時間」に関する質問項目 (p14, II-9-B) では、「6時間以上」の回答比率は福岡医療短期大学が1割程度、久留米信愛女学院短期大学は4割程度に留まるとともに、「全然ない」「1時間未満」の回答群は福岡医療短期大学が7割程度、久留米信愛女学院短期大学は2割程度存在している。
- ・(p14, II-9-B) に関する福岡医療短期大学の経年変化(平成26～28年度)では、「6時間以上」の回答比率の増加や、「全然ない」「1時間未満」の回答比率の低減傾向は認められなかった。

C) 学生満足度を含めた教育の質保証

(1) 欠席・遅刻数および授業への興味・関心

- ・「授業を欠席した (p11, II-8-G)」や「授業を遅刻した (p11, II-8-H)」について、「ひんぱんにした」「ときどきした」と回答した学生は、両大学とも4～5割程度であった。
- ・「授業をつまらなく感じた (p11, II-8-I)」や「授業中に居眠りをした (p12, II-8-J)」につ

いて「ひんぱんにした」と回答した学生は、両大学とも1割程度存在している。

(2) 教育の質の保証

- ・授業内容の満足度に関して、「専門教育あるいは所属学科の授業(p33, V-21-A)」と「所属学科の学内実習や学外実習(p34, V-21-B)」について、福岡医療短期大学では経年変化(平成26～28年度)を通して「不満」「とても不満」と回答した学生が若干名存在していた。久留米信愛女学院短期大学においても「不満」「とても不満」と回答した学生が若干名存在していた。
- ・「p34, 授業の全体的な質(V-21-C)」については、両大学とも「不満」と回答した学生が1割程度存在していた。
- ・入学時点と比較した「専門分野や学科の知識」の変化に関する質問(p18, II-10-C)について「変化なし」と回答した学生比率が、福岡医療短期大学では3割程度、久留米信愛女学院短期大学は1割程度存在している。
- ・「学外での実習に意欲的に取り組んでいるか(p26, III-12B)」について「どちらでもない」を含む否定的な回答比率が福岡医療短期大学において2割強、久留米信愛女学院短期大学において2割弱存在している。

4. 結果の活用について

今回、両大学共同で学生 IR 調査とその集計を行い、介護福祉士と幼稚園教諭・保育士を養成する学科間(ともに2年次)の IR 調査について結果の概要を取り纏めた。学生 IR 調査は、学修成果の可視化の一つの手段であるため、今後その分析や結果の解釈を進めることで、さらなる教学支援組織の強化や入試選抜方法の見直し、教育・研究、学生支援の改善等を通じて、今後の教育の質保証・向上に取り組んでいく予定である。

以上